

■ 大阪府連称号者伝達講習会

6月2日、称号受有者伝達講習会が大阪城弓道場に於いて開催されました。参加者は80名に及ぶ多数の参加でした。「本年は改定・変更された事項はなく、教本や、副読本を基本にして、思い込みや、崩れている所を正しくする、とともに指導者として、今日、学んだことを理解して、正しく指導を行って下さい。」……と主任講師・下田先生のお話がありました。



熱心にメモを執る受講生

■ 大阪府連講習会

6月9日大阪府連講習会がつぎの通り開催されました。級なし・級～初段受有者(吹田市立武道館弓道場)、参加者102名、弐～参段受有者(住吉武道館弓道場)参加者88名、1週間後に府連審査を控えていた事もあったのでしょうか、両会場共に多数の方が受講されました。



住吉武道館弓道場講習風景

■ 大阪府連夏季審査

6月16日、前日の雨が嘘のように晴れ渡り、蒸し暑い夏の日差しの下大阪府連夏季審査が開催されました。無指定～初段の部は万博記念公園弓道場・二～四段は堺初芝体育館弓道場に於いて行われました。受審者総数350名。審査結果は次の通りでした。

☆無指定

一級 36名 二級 34名 三級 7名
初段 2名 現級 24名

☆初段 26名 弐段 14名

☆参段 10名

岡 直樹(府立大) ・増田直之(教育大)
山本直人(歯科大) ・今坂俊博(大阪大)
植松恵子(高槻) ・安部正悟(加支多)
吉村あかね(府立大) ・小笠原麻貴(朝日)
野守彩香 (堺) ・平山博邦(岸和田)

☆四段 5名

吉田健次 (吹田) ・石上健二郎(歯科大)
福田光雄 (朝日) ・高良耕雄 (住吉)
奥村秀雄 (高槻)



万博審査会場



堺・初芝審査会場

(写真 : 塚本正雄・鉄谷康博)

■ 全日本選手権出場選手決定選考会

6月23日、吹田市立武道館弓道場に於いて全日本弓道選手権大会出場選手の決定選考会が開催されました。5月26日開催されました一次選考会で選ばれた男女各8名によって競われ次の選手が選ばれました。

【男子】 教士七段 野中秀治
教士七段 下田隆司

【女子】 教士六段 小松正美
教士七段 北川浩子



下田先生・野中先生



北川先生・小松先生

■ 国体出場選手決定選考会

6月30日、万博記念公園弓道場に於いて国体出場選手決定選考会が開催され、次の方々が選出されました。

【男子】 竹島昌典(万博)・國本 健(堺)・津田 悟(高槻)
馬淵信幸(岸和田)・三原喜一(岸和田)

【女子】 高田友美(清和)・林 直子(万博)
岩田 花(清和)・堀井佳菜(清和)



国体出場の男女選手

☆ 会長雑感 ☆

総受審者数 545 名(内大阪 72 名 13.2%)

錬士候補者 11 名(内大阪 0)

これは、今年5月の近畿地区臨時中央審査(京都)の結果です。なぜこのような数字が出るのでしょうか？私には理解できません。今までの例から、少なくとも1~2名程度の合格は期待していました。私の考えは間違っているのでしょうか？

上手く言えませんが、受審者の側を見た私の率直な考えです、『大阪の受審者は概して早気で線が細く……自身のなさが印象に残ってなりません。日頃を知っているから短所が強調されるのでしょうか……？ 稽古の仕方に問題は無いのでしょうか？何かこう……「型」にはまった、小さな「弓」に見えて仕方ありません。中り中心の稽古と言いましょか、欠点を直すのみの練習……。少々失敗しても、途中からでも持ち直すと言った“粘り強い弓”がありません。もっと……自分の長所、“私のここを見てくれ……！”と主張する“強い弓”がみたいのです。』

審査の1週間後、夜間講習に30人の五段が来しました。審査を受けた人も居ました。何故ダメだったのか？本当に悔しくないのか？反省と次への意気込みが感じられなかったのが残念です。

一方、指導者側に問題は無いのでしょうか？中には「受審するのも勉強、経験のため……」と言って送り出す指導者も居るようです。準備もしないで……。例えば、1次審査で皆中したが2次審査へ進めなかった――等は明らかに問題があるでしょう――また、2次審査で皆中したのに不合格だった例もあります。的中だけではダメなんです。四段から五段・錬士へは特に慎重な指導が必要だと思います。失敗したら「なぜダメだったのか――どこが悪かったのか――なぜ中らなかつたのか」受審者と一緒になって、良く反省をして、次の審査に向かって、稽古の在り方、修正のポイント等しっかりと相談して、十分に時間をかけて準備した上で受審させてあげて下さい。

- 短所を直す稽古 ○長所を伸ばす稽古
○しっかり助言してくれる指導者

成功を祈っております・・・！

☆ 大阪府弓道連盟の歩み ☆

(弓を始めた頃)



第7代大阪府連会長
教士六段 清水 潔

僕が弓を始めたのは昭和13年(23歳)の時でした。学校を卒業してすぐに天王寺の武徳会に入りました。そこは、全日本武徳会の本道場でした。その時分は武徳会錬士の石黒先生が指導しておられました。

暫くして、岡本行正先生がこられました。僕はあの時分に武徳会の三段までいきました。晩になったら道場へ出かけていったものです。先輩たちは稽古が済むと良く飲みについてましたね。当時、岡本先生・石黒先生が週2回来て下さってました。昔の道場は礼儀正しく、先生には座って挨拶をしました。稽古も遊び半分と言うことは無く、道場の雰囲気は固かったです。原則的には着物を着て、今のようにズボンで引く事は無かったです。稽古は毎晩15人位でしたかね〜。練習生は稽古するのに費用が必要でした、三段をとるとそれが免除されましたので、早く三段になろうと一生懸命でした。武徳会の道場は、柔道場・剣道場と隣り合わせでしたから気風は質実剛健で、武道にかかわることを誇りに思っていました。

僕たちの頃は、先生が「審査に行って来い」と言わないと審査は受けられなかったんです。その当時(昭和16年)審査を受ける人は200人位きてましたね。戦前だからと言っても淋しい事は無かったです。弓道の会は殆ど日曜日毎にあり、随分と盛んでした。招待状が沢山来て、次の日曜日は何処へ行こうかと迷ったものです。昭和16年僕は出征しましたが、戦後もこうして弓が引ける事に感謝をしています。

(次回は数字で見る大阪府連の予定)

暑中お見舞い申し上げます



梓印弓具販売元

有限
会社

駒飼弓具店

〒532-0013

大阪市淀川区木川西2丁目2-4

TEL 06(6301)2019 FAX 06(6301)2507